

# Novell iManager

2.7

October 12, 2007

インストールガイド

[www.novell.com](http://www.novell.com)



Novell®

## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる黙示の保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出規制および他国の商法の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、「[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/)」の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国 Novell, Inc. は、本文書に記載されている製品に統合されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、「[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/)」の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインヘルプ: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインヘルプにアクセスする場合は、「[Novell Documentation \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation/)」の Web ページをご覧ください。

## **Novell の商標**

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## **サードパーティ資料**

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に属します。



# 目次

このガイドについて	7
<b>1 iManager のインストール</b>	<b>9</b>
1.1 iManager 2.7 のサーバベースバージョンとクライアントベースバージョン	9
1.1.1 iManager (サーバベース) でサポートされるプラットフォーム	10
1.1.2 iManager ワークステーションでサポートされるプラットフォーム	11
1.1.3 下位互換性	11
1.2 前提条件	12
1.3 自己署名証明書	12
1.3.1 Linux	12
1.3.2 Windows	14
1.4 インストール中のプラグインのダウンロードおよびインストール	15
1.5 新しいバージョンの iManager のインストール	15
1.5.1 NetWare 6.5 上での iManager サーバ	16
1.5.2 Linux 上での iManager サーバ	16
1.5.3 Windows 上での iManager サーバ	19
1.5.4 Linux クライアント上での iManager ワークステーション	21
1.5.5 Windows クライアント上での iManager ワークステーション	22
1.6 iManager サーバのサイレントインストール	24
1.6.1 標準的なサイレントインストール	24
1.6.2 カスタマイズされたサイレントインストール	24
<b>2 iManager のアップグレード</b>	<b>27</b>
2.1 許可されたユーザ	27
2.2 役割ベースサービスのアップグレード	27
2.3 Plug-in Studio プラグインの再インストールまたは移行	28
<b>3 iManager 2.7 のアンインストール</b>	<b>29</b>
3.1 Linux	29
3.2 NetWare 6.5	30
3.3 Windows	30
3.4 iManager ワークステーション	30



# このガイドについて

このガイドでは、Novell® iManager 2.7 をインストールする方法について説明します。ネットワーク管理者を対象としており、以下のセクションで構成されています。

- ◆ 9 ページの第 1 章「iManager のインストール」
- ◆ 27 ページの第 2 章「iManager のアップグレード」
- ◆ 29 ページの第 3 章「iManager 2.7 のアンインストール」

## 対象読者

このガイドはネットワーク管理者を対象としています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか [www.novell.com/documentation/feedback.html](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスしてコメントを記入してください。

## マニュアルの更新

『iManager 2.7 管理ガイド』の最新バージョンについては、[iManager 2.7 マニュアルサイト \(http://www.novell.com/documentation/imanager27/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/imanager27/index.html) にある英語版マニュアルを参照してください。

## その他のマニュアル

- ◆ *iManager 2.7 管理ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/imanager27>)
- ◆ Tomcat サブレットコンテナ (<http://jakarta.apache.org/tomcat>)
- ◆ Java® Web サイト (<http://java.sun.com>)
- ◆ eDirectory™ ホーム (<http://www.novell.com/products/edirectory>)
- ◆ eDirectory のマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir88/index.html>)
- ◆ Novell eDirectory Cool Solutions コミュニティ (<http://www.novell.com/cool solutions/nds>)
- ◆ Novell テクニカルサービス (<http://support.novell.com>)

## マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、手順に含まれる複数の操作および相互参照パス内の項目を分けるために、左向きの不等号 (>) を使用しています。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (()) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux\*、UNIX\* など、スラッシュを使う必要があるプラットフォームのユーザは、必要に応じてスラッシュを使用してください。



# iManager のインストール

# 1

Novell® iManager では、ブラウザベースのツールからネットワーク全体を監視することができるので、刻々と変化するネットワークの需要を事前に評価して対応することができます。

iManager を使用すると、Novell Open Enterprise Server、Identity Manager、Novell Audit、および BorderManager® を含め、Novell eDirectory™ および多くの Novell 製品やサードパーティ製品を管理できます。この中央集中型の管理システムを使用すると、管理における冗長性や不要な経費を削減できるため、時間とコストを節約できます。

このセクションでは、次の情報を紹介します。

- ◆ 9 ページのセクション 1.1 「iManager 2.7 のサーバベースバージョンとクライアントベースバージョン」
- ◆ 12 ページのセクション 1.2 「前提条件」
- ◆ 12 ページのセクション 1.3 「自己署名証明書」
- ◆ 15 ページのセクション 1.4 「インストール中のプラグインのダウンロードおよびインストール」
- ◆ 15 ページのセクション 1.5 「新しいバージョンの iManager のインストール」
- ◆ 24 ページのセクション 1.6 「iManager サーバのサイレントインストール」

## 1.1 iManager 2.7 のサーバベースバージョンとクライアントベースバージョン

iManager 2.7 の従来のサーバベースバージョンは、単に iManager と呼ばれ、eDirectory ツリーにアクセスできるサーバにインストールされます。クライアントベースバージョンの iManager は iManager ワークステーションと呼ばれ、サーバではなくクライアントワークステーションにインストールされます。どちらのバージョンがご使用の環境により適しているか、または eDirectory 管理ポリシーでは両方のバージョンをインストールするのが有効かどうかを判断するには、次のガイドラインに従ってください。

- ◆ 一人の管理者が、常に同じクライアントワークステーションから eDirectory を管理している場合、iManager ワークステーションを有効に活用できます。iManager ワークステーションは、完全に自己完結型で、セットアップはほとんど必要ありません。ロードまたはアンロードするときに、必要なリソースが自動的に開始および停止されます。iManager ワークステーションは、さまざまな Linux または Windows クライアントワークステーションにインストールされて実行されます。サーバベースの iManager には依存せず、ネットワークにインストールされている他の任意のバージョンの iManager と共存することができます。

iManager プラグインでは、iManager インスタンス間の同期を自動的に行いません。カスタマイズされたプラグインを複数の管理者が使用している場合は、iManager ワークステーションとこれらのプラグインが各管理者のクライアントワークステーションにインストールされている必要があります。

- ◆ 複数のクライアントワークステーションから eDirectory を管理する、または複数の管理者がいる場合は、接続されているすべてのワークステーションから使用できるよう

に iManager サーバをインストールします。また、カスタマイズされたプラグインは、iManager サーバ 1 台につき一度だけインストールする必要があります。

## 1.1.1 iManager (サーバベース) でサポートされるプラットフォーム

iManager 2.7 は、以下のサーバプラットフォームをサポートします。

### オペレーティングシステム

- ◆ NetWare
  - ◆ NetWare 6.5 Service Pack 7 (NW65SP7)
- ◆ Linux
  - ◆ Red Hat\* 4 (32 ビットと 64 ビットの両方)
  - ◆ 最新の更新を含む SLES 9 SP3 (32 ビットと 64 ビットの両方)
  - ◆ SLES 10 および SLES 10 SP1 (32 ビットと 64 ビットの両方)
  - ◆ Open Enterprise Server 2
- ◆ Windows
  - ◆ 2000 Server SP4
  - ◆ 2000 Advanced Server SP4
  - ◆ Server 2003 R2

---

注：iManager 2.7 には、サポートされているプラットフォームとして Solaris が含まれていません。ただし、Solaris プラットフォーム上で実行される、eDirectory などのアプリケーションやリソースを、iManager で引き続き管理して使用することができます。

---

### アプリケーションサーバ

- ◆ Tomcat 5.0.x

### Web サーバ

Open Enterprise Server 2 (OES 2) プラットフォーム (Linux と NetWare) を除き、iManager は Web サーバ要件に対して Tomcat 5 だけを使用します。OES 2 Linux プラットフォーム上では、iManager 2.7 は Tomcat 5.0.30 と Apache 2.2.3 の両方を使用します。NetWare 6.5 SP7 では、iManager 2.7 は Tomcat 5.0.30 と Apache 2.0.59 の両方を使用します。

### ブラウザ

- ◆ Windows 2000 上の IE 6 SP1
- ◆ Windows XP 上の IE 6 SP2
- ◆ IE 7
- ◆ Firefox\* 1.5.x、または 2.0.x

---

**重要:** その他の Web ブラウザを使用しても iManager にアクセスできますが、正常な動作は保証されません。

---

iManager 2.7 では、パスベースのマルチホーミングアクセラレータを搭載し、URL からのサブパスの削除を有効にした iChain<sup>®</sup> サーバ経由のアクセスはサポートされません。

## ディレクトリサービス

- ◆ eDirectory 8.7.3
- ◆ eDirectory 8.8

## 1.1.2 iManager ワークステーションでサポートされるプラットフォーム

iManager ワークステーションでは、以下のデスクトッププラットフォームがサポートされます。

### Linux

- ◆ openSUSE 10.2
- ◆ Red Hat Enterprise Linux Work Station 4
- ◆ SUSE Linux Enterprise Desktop 10 および 10 SP1 (SLED)

### Windows

- ◆ Windows XP Professional SP2
- ◆ Windows 2000 Professional SP4
- ◆ Windows Vista (32 ビットのみ)

---

**注:** iManager 2.7 のリリースでは、"Mobile iManager" という用語は、"iManager ワークステーション" に変更されました。

---

## 1.1.3 下位互換性

iManager 2.7 サーバのインストールルーチンで、iManager 2.5 または 2.6 の以前インストールされたバージョンが検出された場合、既存の iManager および Tomcat が削除されることを示すプロンプトが表示されます。削除しない場合は、インストールを中止します。

iManager ワークステーションは自己完結型の環境であるので、同じワークステーション上に (Mobile iManager の旧バージョンを含む) 複数のバージョンをインストールすることができます。ただし、それらを同時に実行しないでください。異なるバージョンを使用する必要がある場合は、ある 1 つのバージョンを実行して、そのバージョンを閉じてから、別のバージョンを実行します。

iManager 2.7、iManager 2.6 および iManager 2.5 では、同じ eDirectory ツリーを管理することができます。iManager 2.7 の場合は、RBS コレクションを更新する必要があります。更新された RBS コレクションは、iManager 2.6 および 2.5 との後方互換性を維持します。

## 1.2 前提条件

iManager または iManager ワークステーションをインストールして使用するには、以下の前提条件を満たす必要があります。これらの前提条件は、すべてのサーバプラットフォームに適用されます。プラットフォーム固有のその他の前提条件については、[15 ページのセクション 1.5 「新しいバージョンの iManager のインストール」](#) で説明します。

- **eDirectory 管理** : iManager 2.7 は、Novell eDirectory 8.7.3 以降を実行しているすべてのサーバを管理できます。
- **管理者と同等の権利** : eDirectory ツリーで役割ベースサービス (RBS) コレクションを作成する際、あるいは RBS 設定ウィザードを実行する際は、管理者と同等の権利が必要になります。
- **ファイルシステム権利** : Linux サーバに対するルートアクセス、NetWare サーバに対する管理者アクセス、または Windows サーバに対する管理者アクセスが必要です。

## 1.3 自己署名証明書

---

**注** : このセクションの情報は、Tomcat と Apache の両方をインストールする OES Linux または OES NetWare には適用されません。OES Linux のマニュアルに、Apache と Tomcat の自己署名証明書の置き換えに関する情報が記載されています。

---

スタンドアロンの iManager のインストールには、Tomcat によって使用される、一時的な、自己署名証明書が含まれます。自己署名証明書の有効期限は 1 年間です。

これは長期的な使用を目的としたものではありません。システムを稼働させて、インストール後すぐに iManager を安全に使用できるようにするための一時的なソリューションです。OpenSSL では、テストを目的とする場合を除き、自己署名証明書の使用を推奨していません。

自己署名証明書の置き換えに関する 1 つの課題は、Tomcat のデフォルトのキーストアが Tomcat {JKS} フォーマットファイルを使用することです。このキーストアを変更するために使用するツールである keytool は、秘密鍵をインポートできません。自己生成したキーのみを使用します。

eDirectory を使用している場合は、追加投資を行わずに、Novell 証明書サーバを使用して証明書の生成、追跡、格納、および取り消しを安全に行うことができます。Novell 証明書サーバを使用して eDirectory で公開鍵と秘密鍵のペアを生成するには、該当するプラットフォームの手順を完了します。

### 1.3.1 Linux

以下の手順は、Linux プラットフォームで、eDirectory 内にキーペアを作成し、PKCS#12 ファイルを使用して公開鍵、秘密鍵、およびルート CA(証明機関) 鍵をエクスポートする方法を示しています。これには、PKCS12 ディレクティブを使用し、デフォルトの JKS キーストアを使用するのではなく環境設定が実際の P12 ファイルを参照するように、Tomcat の server.xml 環境設定ファイルを変更する手順が含まれます。

このプロセスに関連するファイルは次のとおりです。

- ◆ 一時的なキーペアは、/var/opt/novell/novlwww/keystore ファイルに保存されます。
- ◆ 信頼できるルートは、/etc/opt/novell/java/security/cacerts ファイルに含まれます。

- ◆ Tomcat の証明書の使用を設定するためのファイルは、`/etc/opt/novell/tomcat5/server.xml` です。

1. iManager で新しいサーバ証明書を作成します。

iManager で、[Novell Certificate Server (Novell 証明書サーバ)] > [Create Server Certificate (サーバ証明書の作成)] の順に選択します。適切なサーバを選択し、ニックネームを指定し、残りは証明書のデフォルト値を使用します。

2. サーバ証明書を Tomcat のホームディレクトリ (`/var/opt/novell/novlwww`) にエクスポートします。iManager で、[ディレクトリ管理] > [オブジェクトの変更] の順に選択します。KMO オブジェクトを参照して選択します。[Certificates (証明書)] タブで、[エクスポート] を選択します。パスワードを指定し、サーバ証明書を `pkcs12` ファイル (`.pfx`) として保存します。

3. `.pfx` ファイルを `.pem` ファイルに変換します。

この変換を行うには、次のようなコマンドを使用します。

```
openssl pkcs12 -in newtomcert.pfx -out newtomcert.pem
```

手順2で指定した証明書パスワードを指定し、新しい `.pem` ファイルのパスワードを指定します。同じパスワードを使用することもできます。

4. `.pem` ファイルを `.p12` ファイルに変換します。

この変換を行うには、次のようなコマンドを使用します。

```
openssl pkcs12 -export -in newtomcert.pem -out newtomcert.p12 -name "New Tomcat"
```

手順3で指定した証明書パスワードを指定し、新しい `.p12` ファイルのパスワードを指定します。同じパスワードを使用することもできます。

5. Tomcat を停止します。

```
/etc/init.d/novell-tomcat5 stop
```

6. Tomcat の環境設定ファイル (`/etc/opt/novell/tomcat5/server.xml`) を編集し、`keystoreType`、`keystoreFile`、および `keystorePass` 変数を追加して、新しく作成された `.p12` 証明書ファイルを Tomcat が使用できるようにします。例を次に示します。

```
<Connector className="org.apache.coyote.tomcat5.CoyoteConnector"
port="8443" minProcessors="5" maxProcessors="75"
enableLookups="true" acceptCount="100" debug="0" scheme="https"
secure="true" useURIVValidationHack="false"
disableUploadTimeout="true"> <Factory
className="org.apache.coyote.tomcat5.CoyoteServerSocketFactory"
clientAuth="false" protocol="TLS" keystoreType="PKCS12"
keystoreFile="/var/opt/novell/novlwww/newtomcert.p12"
keystorePass="password" /></Connector>
```

キーストアの種類を `PKCS12` に設定するときは、Tomcat ではデフォルトで Tomcat ホームパスが使用されなくなるため、証明書ファイルのパス全体を指定する必要があります。

7. `.p12` ファイルの所有権を適切な Tomcat ユーザ / グループ (通常は `novlwww`) に変更し、ファイルのパーミッションを `user=rw`、`group=rw`、および `others=r` に設定します。例を次に示します。

```
chown novlwww:novlwww newtomcert.p12
```

```
chmod 654 newtomcert.p12
```

8. Tomcat を再起動します。例を次に示します。

```
/etc/init.d/novell-tomcat5 start
```

## 1.3.2 Windows

以下の手順は、Windows プラットフォームで、edirectory 内にキーペアを作成し、pkcs#12 ファイルを使用して公開鍵、秘密鍵、およびルート CA(証明機関) 鍵をエクスポートする方法を示しています。これには、PKCS12 ディレクトティブを使用し、デフォルトの JKS キーストアを使用するのではなく環境設定が実際の P12 ファイルを参照するように、Tomcat の server.xml 環境設定ファイルを変更する手順が含まれます。

このプロセスに関連するファイルおよびそのデフォルトの場所は次のとおりです。

- ◆ 一時的なキーペア : C:\Program Files\Novell\Tomcat\conf\ssl\keystore
- ◆ 信頼できるルート証明書 : C:\Program Files\Novell\jre\lib\security\cacerts
- ◆ Tomcat の証明書が使用する環境設定 : C:\Program Files\Novell\Tomcat\conf\server.xml

1. iManager で新しいサーバ証明書を作成します。

iManager で、[Novell Certificate Server (Novell 証明書サーバ)] > [Create Server Certificate (サーバ証明書の作成)] の順に選択します。適切なサーバを選択し、ニックネームを指定し、残りは証明書のデフォルト値を使用します。

2. サーバ証明書をエクスポートします。iManager で、[ディレクトリ管理] > [オブジェクトの変更] の順に選択します。KMO オブジェクトを参照して選択します。[Certificates (証明書)] タブで、[エクスポート] を選択します。パスワードを指定し、サーバ証明書を pkcs12 ファイル (.pfx) として保存します。
3. .pfx ファイルを .pem ファイルに変換します。

---

**注 :** OpenSSL は Windows ではデフォルトでインストールされませんが、Windows プラットフォーム用のバージョンは [OpenSSL の Web サイト \(http://www.openssl.org/related/binaries.html\)](http://www.openssl.org/related/binaries.html) に用意されています。または、OpenSSL がデフォルトでインストールされている Linux プラットフォーム上で証明書を変換することができます。

---

この変換を行うには、次のようなコマンドを使用します。

```
openssl pkcs12 -in newtomcert.pfx -out newtomcert.pem
```

手順 2 で指定した証明書パスワードを指定し、新しい .pem ファイルのパスワードを指定します。同じパスワードを使用することもできます。

4. .pem ファイルを .p12 ファイルに変換します。

この変換を行うには、次のようなコマンドを使用します。

```
openssl pkcs12 -export -in newtomcert.pem -out newtomcert.p12 -name "New Tomcat"
```

手順 3 で指定した証明書パスワードを指定し、新しい .p12 ファイルのパスワードを指定します。同じパスワードを使用することもできます。

5. .p12 ファイルを Tomcat の証明書がある場所にコピーします。  
デフォルトでは、C:\Program Files\Novell\Tomcat\conf\ssl\ です。
6. Tomcat サービスを停止します。  

```
/etc/init.d/novell-tomcat5 stop
```

7. Tomcat の server.xml を編集し、keystoreType、keystoreFile、および keystorePass 変数を追加して、新しく作成された .p12 証明書ファイルを Tomcat が使用できるようにします。例を次に示します。

```
<Connector className="org.apache.coyote.tomcat5.CoyoteConnector"
port="8443" minProcessors="5" maxProcessors="75"
enableLookups="true" acceptCount="100" debug="0" scheme="https"
secure="true" useURIVValidationHack="false"
disableUploadTimeout="true"> <Factory
className="org.apache.coyote.tomcat5.CoyoteServerSocketFactory"
clientAuth="false" protocol="TLS" keystoreType="PKCS12"
keystoreFile="/conf/ssl/newtomcert.p12" keystorePass="password" />
```

キーストアの種類を PKCS12 に設定するときは、Tomcat ではデフォルトで Tomcat ホームパスが使用されなくなるため、証明書ファイルのパス全体を指定する必要があります。

8. Tomcat サービスを開始します。

## 1.4 インストール中のプラグインのダウンロードおよびインストール

iManager 2.7 のインストール処理中にメッセージが表示され、使用可能なプラグインの XML デスクリプタファイルを参照する URL を表示します。Novell デスクリプタファイルのデフォルトの場所は ([http://www.novell.com/products/consoles/imanager/iman\\_mod\\_desc.xml](http://www.novell.com/products/consoles/imanager/iman_mod_desc.xml)) です。

iManager インストールでデフォルトのデスクリプタファイルの URL へのアクセスに問題がある場合は、この URL を異なる場所に変更することができます。iManager のプラグインのダウンロードおよびインストールプロセスのカスタマイズについては、『*iManager 2.7 管理ガイド*』の「**Plug-In Module Installation (プラグインモジュールのインストール)**」を参照してください。""

クリーンインストールの場合、「標準」のプラグインはあらかじめ選択されています。アップグレードの場合は、更新する必要があるプラグインのみがあらかじめ選択されています。デフォルトの選択内容を無効にし、ダウンロードする新しいプラグインを追加することができますが、以前のバージョンの iManager から更新するようにあらかじめ選択されているプラグインの選択は解除しないことをお勧めします。

---

**重要 :** iManager 2.7 プラグインは、iManager の以前のバージョンとの互換性がありません。さらに、iManager 2.7 で使用するすべてのカスタムプラグインを、iManager 2.7 SDK を使用して、iManager 2.7 環境で再コンパイルする必要があります。

---

## 1.5 新しいバージョンの iManager のインストール

Novell iManager 2.7 は、次のプラットフォームにインストールできます。iManager をインストールする前に、使用しているプラットフォーム用の最新のサービスパックを適用し、[12 ページ](#)の「**前提条件**」に記載されている前提条件を満たしておく必要があります。

- ◆ [16 ページ](#)のセクション 1.5.1 「NetWare 6.5 上での iManager サーバ」
- ◆ [16 ページ](#)のセクション 1.5.2 「Linux 上での iManager サーバ」
- ◆ [19 ページ](#)のセクション 1.5.3 「Windows 上での iManager サーバ」

- ◆ 21 ページのセクション 1.5.4「Linux クライアント上での iManager ワークステーション」
- ◆ 22 ページのセクション 1.5.5「Windows クライアント上での iManager ワークステーション」

## 1.5.1 NetWare 6.5 上での iManager サーバ

iManager 2.7 は、NetWare 6.5 用のスタンドアロンインストールオプションを提供しません。iManager 2.7 は、NetWare 6.5 Service Pack 7 (NW65SP7) でオプションのインストールコンポーネントとして使用できるようになっています。NetWare 6.5 SPx から SP7 にアップグレードして、iManager 2.5 または 2.6 がインストールされている場合、iManager は iManager 2.7 にアップグレードされます。また、iManager 2.0.2 がインストールされている場合、iManager 2.7 にはアップグレードされず、変更されません。iManager 2.0.2 から iManager 2.7 にアップグレードするには、まず iManager 2.6 にアップグレードする必要があります。NW65SP7 のマニュアルには、NetWare 6.5 上に iManager 2.7 をインストールするために必要なすべての前提条件と手順が記載されています。

## 1.5.2 Linux 上での iManager サーバ

iManager 2.7 のインストールルーチンで、iManager 2.5 または 2.6 の以前インストールされたバージョンが検出された場合、既存の iManager および Tomcat が削除されることを示すプロンプトが表示されます。削除しない場合は、インストールを中止します。

ただし、iManager の以前インストールされたバージョンを削除する際、以前作成されたカスタムコンテンツを保持するために、そのディレクトリ構造が、古い `TOMCAT_HOME` ディレクトリにバックアップされます。

インストールの準備をするために、以下の前提条件のチェックリストを確認します。

### 前提条件

Linux に iManager をインストールする場合は、12 ページのセクション 1.2 「前提条件」に記載されている一般的な前提条件に加えて、次の前提条件も適用されます。

- **必要な Linux パッケージ:** 以下のパッケージがインストールされていない場合は、Linux 配布ベンダーから入手し、iManager をインストールする前にインストールする必要があります。これらは通常、インストール CD に格納されています。
  - ◆ `compat-libstdc++-lsb` (SUSE)
  - ◆ `compat-libstdc++-33` (Red Hat AS 4.0)
- **以前のバージョンの iManager:** iManager 2.5 または 2.6 がインストールされている場合は、これをアンインストールする必要はありません。詳細については、27 ページの第 2 章「iManager のアップグレード」を参照してください。
- **プロセッサ:** Pentium\* III 600MHz 以上のプロセッサ
- **ディスク容量:** ローカルインストール用として 200MB の空きディスク領域
- **メモリ:** 512MB の RAM (1024MB を推奨)
- **ポートのセットアップ:** ポートは競合する可能性があります。Tomcat は iManager 2.7 インストールの一部としてインストールされ、デフォルトポートが使用中かどうかを判断します。これらのポートが使用されていると、Tomcat により使用される別のポートを入力するよう要求するプロンプトがインストール中に表示されます。デフォルトでは、Tomcat はポート 8080、8443、および 9009 を使用します。

---

**重要:** Linux 上では、iManager とともにインストールされるバージョンの Tomcat を使用しないと iManager はサポートされません。

---

iManager は、インストール中に以下の製品をインストールします。

- ◆ Tomcat 5.0.28
- ◆ Sun\* J2SDK 1.5.0\_11
- ◆ Novell International Cryptographic Infrastructure (NICI) 2.7.3

## 手順

- 1 **Novell ダウンロードサイト** (<http://download.novell.com>) で、iManager 製品を検索し、iManager 2.7 を選択します。次に、iMan\_27\_linux.tgz をサーバ上のディレクトリにダウンロードします。
- 2 iManager フォルダに展開するには、次のコマンドを使用します。

```
tar -zxvf iMan_27_linux.tgz
```

- 3 シェルを開き、`/extracted_directory/iManager/installs/linux` ディレクトリに移動します。このパスは、iManager のファイルをコピーまたは展開したディレクトリに対する相対パスです。
- 4 ルートまたはルートと同等のユーザとしてログインしているときに、次のコマンドのいずれか 1 つを入力します。

コマンドライン (テキスト) インストールを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallLinux.bin
```

GUI インストールを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallLinux.bin -i gui
```

正常にインストールされると、インストール中に提示された質問の答えに基づいた値で、環境設定ファイル (`/var/log/installer.properties`) が生成されます。このファイルを変更してサイレントインストール用に使用することができます。詳細については、[24 ページのセクション 1.6 「iManager サーバのサイレントインストール」](#) を参照してください。

---

**警告:** Linux に iManager を再インストールするときは、インストールルーチンを再実行する前に必ずアンインストールルーチン ([29 ページの 「iManager 2.7 のアンインストール」](#) を参照) を実行してください。以前のインストールを最初にアンインストールせずにインストールを実行すると、Tomcat の環境設定が壊れ、起動できなくなる可能性があります。

---

- 5 iManager のスプラッシュ画面が表示されたら言語を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 インTRODクションに目を通し、[次へ] をクリックします。
- 7 使用許諾書に同意して、[次へ] をクリックします。
- 8 iManager インストールの一部としてインストールするコンポーネントを指定し、[次へ] をクリックします。
- 9 インストールの一部としてプラグインをダウンロードおよびインストールするかどうかを指定し、[次へ] をクリックします。

- 10** (プラグインをインストールする場合) インストールの一部としてプラグインをインストールするには、ダウンロードするプラグインを指定し、[次へ] をクリックします。

- ◆ コンソールインストールの場合は、ダウンロードするプラグイン番号のコンマ区切りリストを入力します。
- ◆ GUI インストールの場合は、チェックボックスを選択します。デフォルトの項目がすでに選択されています。

必要に応じて、プラグインをダウンロードするための代替 URL を指定することができます。詳細については、**15 ページのセクション 1.4 「インストール中のプラグインのダウンロードおよびインストール」**を参照してください代替 URL を使用してプラグインをダウンロードする場合は、ご自分の責任で URL コンテンツを確認し、プラグインが使用に適していることを確認してください。

「新規または更新されたプラグインが見つかりませんでした。すべてのプラグインがダウンロードまたは更新されているか、iManager ダウンロードサーバが利用できません」というメッセージがプラグインダウンロード領域に表示された場合、以下の 1 つ以上の条件が存在します。

- ◆ Novell のダウンロードサイトに利用可能な更新されたプラグインがありません
  - ◆ インターネットの接続に問題があります。接続を確認してください
  - ◆ **Novell デスクリプタファイル ([http://www.novell.com/products/consoles/imanager/iman\\_mod\\_desc.xml](http://www.novell.com/products/consoles/imanager/iman_mod_desc.xml))** への接続が、正常に行われませんでした。
  - ◆ iManager のインストールが、上記の URL への接続が許可されていないプロキシの背後にあります。
- 11** ローカルドライブからプラグインをインストールするかどうかを指定し、[次へ] をクリックします。
- 12** (ローカルドライブからインストールする場合) ローカルディレクトリからプラグインをインストールするには、適切なプラグイン (.npm) ファイルを含むディレクトリパスを指定します。
- デフォルトパスは /**展開した場所**/iManager/installs/plug-ins ですが、有効なマウントポイントをここで指定できます。
- 13** Tomcat を実行するポートを指定します。
- デフォルト値は、HTTP は 8080、HTTPS は 8443、MOD\_JK コネクタポートは 9009 です。
- 14** (オプション) 許可されたユーザおよびこのユーザが管理する適切な eDirectory ツリー名を指定し、[次へ] をクリックします。
- この情報は、インストール中に eDirectory に対する認証を受けるためには使用されません。情報はどのような方法でも検証されません。iManager ログインページが必要とする構文を使用していることを確認してください。
- これらのフィールドを空白のままにすると、iManager で任意のユーザがプラグインをインストールし、iManager サーバ設定を変更できるようになります (長期的な使用にはお勧めできません)。iManager の [設定] > [iManager サーバ] > [iManager の設定] > [セキュリティ] ページからインストール後に許可されるユーザを指定します。> > > 詳細については、『*iManager 2.7 管理ガイド*』の「**Authorized Users (許可されたユーザ)**」を参照してください。””
- 15** [インストール前の概要] ページを確認して、[インストール] をクリックします。

インストール時には、iManager ファイルのインストール、プラグインのダウンロード、および設定の変更が行われます。インストールには、数分かかる場合があります。

インストールの終了後、[はじめに] ページが表示されるまで数秒待ちます。iManager にアクセスするには、「[iManager へのアクセス](#)」を参照してください。

iManager の以前のバージョンからアップグレードした場合は、[27 ページの第 2 章「iManager のアップグレード」](#)を参照してください。

### 1.5.3 Windows 上での iManager サーバ

iManager 2.7 のインストールルーチンで、iManager 2.5 または 2.6 の以前インストールされたバージョンが検出された場合、既存の iManager および Tomcat が削除されることを示すプロンプトが表示されます。削除しない場合は、インストールを中止します。

ただし、iManager の以前インストールされたバージョンを削除する際、以前作成されたカスタムコンテンツを保持するために、そのディレクトリ構造が、古い `TOMCAT_HOME` ディレクトリにバックアップされます。

インストールの準備をするために、以下の前提条件のチェックリストを確認します。

#### 前提条件

Windows に iManager をインストールする場合は、[12 ページのセクション 1.2「前提条件」](#)に記載されている一般的な前提条件に加えて、次の前提条件も適用されます。

- ❑ **以前のバージョンの iManager:** iManager 2.5 または 2.6 がインストールされている場合は、これをアンインストールする必要はありません。詳細については、[27 ページの第 2 章「iManager のアップグレード」](#)を参照してください。
- ❑ **Web サービス:** iManager は Windows サーバ上で Tomcat を使用します。IIS または Apache 環境との統合は用意されていません。ただし、iManager 2.7 のインストール後、必要に応じて、iManager を既存の Web サーバインフラストラクチャと手動で統合することができます。
- ❑ **プロセッサ:** Pentium III 600MHz 以上のプロセッサ
- ❑ **ディスク容量:** ローカルインストール用として 500MB 以上
- ❑ **メモリ:** 512MB の RAM (1024MB を推奨)

iManager をインストールすると以下の製品がインストールされます。

- ◆ Tomcat 5.0.28
- ◆ Sun JRE 1.5.0\_11
- ◆ Novell International Cryptographic Infrastructure (NICI) 2.7.3

#### 手順

Novell eDirectory と同じマシンでの iManager サーバの実行については、『[iManager 2.7 管理ガイド](#)』の「[Running eDirectory and iManager on the Same Machine \(Windows only\) \(同じマシンでの eDirectory と iManager の実行 \(Windows のみ\)\)](#)」を参照してください。 ””

- 1 iManager をインストールするための管理者権限を持つユーザとしてログインします。

- 2 **Novell ダウンロードサイト (<http://download.novell.com>)** で、iManager 製品を検索し、iManager 2.7 を選択します。次に、それをサーバ上のディレクトリにダウンロードします。
- 3 iManager フォルダにファイルを展開します。
- 4 (*extracted directory*\iManager\installs\win に格納されている ) iManagerInstall.exe を探し実行します。

インストーラを起動した直後に <Ctrl> キーを押すと、インストールプログラムのデバッグ出力を表示できます。コンソールウィンドウが表示されるまで、<Ctrl> キーを押し続けてください。デバッグの詳細については、『iManager 2.7 管理ガイド』の「**Troubleshooting (トラブルシューティング)**」を参照してください。”
- 5 iManager のスプラッシュ画面が表示されたら言語を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [イントロダクション] ページで、[次へ] をクリックします。
- 7 使用許諾書に同意して、[次へ] をクリックします。
- 8 [検出の概要] ページを確認して、[次へ] をクリックします。

[検出の概要] には、iManager がインストール後に使用する、現在インストールされているサブレットコンテナおよび JVM ソフトウェアと、iManager インストールの一部としてインストールされるサポートコンポーネントが表示されます。正しいバージョンがリストに表示されていない場合は、[参照] ボタンを使用して、インストールされているコンポーネントのリストを変更します。
- 9 インストールフォルダを指定し、[次へ] をクリックします。

デフォルトのインストールディレクトリは、C:\Program Files\Novell です。
- 10 ダウンロードしてインストールするプラグインを選択し、[次へ] をクリックします。

必要に応じて、代替 URL を指定できます。詳細については、**15 ページのセクション 1.4 「インストール中のプラグインのダウンロードおよびインストール」** を参照してください。代替 URL を使用してプラグインをダウンロードする場合は、ご自分の責任で URL コンテンツを確認し、プラグインが使用に適していることを確認してください。

「新規または更新されたプラグインが見つかりませんでした。すべてのプラグインがダウンロードまたは更新されているか、iManager ダウンロードサーバが利用できません」というメッセージがプラグインダウンロード領域に表示された場合、以下の 1 つ以上の条件が存在します。

  - ◆ Novell のダウンロードサイトに利用可能な更新されたプラグインがありません
  - ◆ インターネットの接続に問題があります、接続を確認してください
  - ◆ **Novell デスクリプタファイル ([http://www.novell.com/products/soles/imanager/iman\\_mod\\_desc.xml](http://www.novell.com/products/soles/imanager/iman_mod_desc.xml))** への接続が、正常に行われませんでした。
  - ◆ iManager のインストールは、上記の URL への接続が許可されていないプロキシの背後にあります。
- 11 (オプション) ローカルディスクドライブからインストールするプラグインを選択し、[次へ] をクリックします。

これにより、インストール中に以前にダウンロードしたプラグインまたはカスタムプラグインをインストールできます。
- 12 (オプション) 許可されたユーザおよびこのユーザが管理する適切な eDirectory ツリー名を指定し、[次へ] をクリックします。

この情報は、インストール中に eDirectory に対する認証を受けるためには使用されません。情報はどのような方法でも検証されません。iManager ログインページが必要とする構文を使用していることを確認してください。

これらのフィールドを空白のままにすると、iManager で任意のユーザがプラグインをインストールし、iManager サーバ設定を変更できるようになります ( 長期的な使用にはお勧めできません )。iManager の [設定] > [iManager サーバ] > [iManager の設定] > [セキュリティ] ページからインストール後に許可されるユーザを指定します。> > > 詳細については、『iManager 2.7 管理ガイド』の「[Authorized Users \( 許可されたユーザ \)](#)」を参照してください。 ”

**13** [インストール前の概要] ページを確認して、[インストール] をクリックします。

インストール時には、iManager ファイルのインストール、プラグインのダウンロード、および設定の変更が行われます。インストールには、数分かかる場合があります。

インストールが終了すると、ブラウザウィンドウに [はじめに] ページが表示されます。iManager にアクセスするには、初期化されるまで待つ必要があります。

iManager にアクセスするには、[はじめに] ページの最初のリンクをクリックしてログインします。詳細については、「[iManager へのアクセス](#)」を参照してください。

iManager の以前のバージョンからアップグレードした場合は、[27 ページの第 2 章「iManager のアップグレード」](#)を参照してください。

## 1.5.4 Linux クライアント上での iManager ワークステーション

iManager ワークステーションは自己完結型の環境であるので、同じワークステーション上に (Mobile iManager の旧バージョンを含む) 複数のバージョンをインストールすることができます。ただし、それらを同時に実行しないでください。異なるバージョンを使用する必要がある場合は、ある 1 つのバージョンを実行して、そのバージョンを閉じてから、別のバージョンを実行します。

インストールの準備をするために、以下の前提条件のチェックリストを確認します。

### 前提条件

Linux クライアントに iManager ワークステーションをインストールする場合は、[12 ページのセクション 1.2 「前提条件」](#)に記載されている一般的な前提条件に加えて、次の前提条件も適用されます。

- 必要な Linux パッケージ:** 以下のパッケージがインストールされていない場合は、Linux 配布ベンダーから入手し、iManager をインストールする前にインストールする必要があります。これらは通常、インストール CD に格納されています。
  - ◆ GTK2
  - ◆ GLIBC 2.3
- プロセッサ:** Pentium III 600MHz 以上のプロセッサ
- ディスク容量:** 最低 200MB
- メモリ要件:** 256MB の RAM (512MB を推奨)

---

**重要:** スペースを含むパスから iManager ワークステーションを実行しないでください。

---

iManager は、以下の製品をインクルードまたはインストールします。

- ◆ Tomcat 5.0.28
- ◆ Sun J2SDK 1.5.0\_11-b03
- ◆ Novell International Cryptographic Infrastructure (NICI) 2.7.3

## 手順

- 1 **Novell ダウンロードサイト (<http://download.novell.com>)** で、iManager 製品を検索し、iManager 2.7 を選択します。次に、iMan\_27\_workstation\_linux.tar.bz2 をサーバ上のディレクトリにダウンロードします。
- 2 次のコマンドを使って、ファイルを展開します。

```
tar -xjvf iMan_27_workstation_linux.tar.bz2
```

展開により、iManager ワークステーションの tar.bz2 ファイルが置かれているのと同じフォルダに imanager フォルダが作成されます。
- 3 ルート、またはルート同等のユーザとしてログインし、Novell International Cryptography Infrastructure (NICI) ソフトウェアをインストールします。  
このインストールを行うには、imanager/NICI/linux ディレクトリから次のコマンドを実行します。

```
rpm -Uvh nici.i386.rpm
```

NICI がインストールされていないデスクトップでこのコマンドを使用すると、NICI がインストールされます。NICI がすでにインストールされているデスクトップでこのコマンドを使用すると、NICI がアップグレードされます。
- 4 将来、iManager ワークステーションを非ルートユーザとして実行する場合、最初に iManager をルートとして実行しないでください。imanager/bin ディレクトリに移動し、iManager ワークステーションの起動スクリプトを実行します。

```
./iManager.sh
```
- 5 iManager のログイン画面が表示されたら、ユーザ名、パスワード、および eDirectory ツリーを指定します。  
iManager にアクセスするには、「**iManager へのアクセス**」を参照してください。

iManager の以前のバージョンからアップグレードした場合は、**27 ページの第 2 章「iManager のアップグレード」**を参照してください。

## 1.5.5 Windows クライアント上での iManager ワークステーション

iManager ワークステーションは自己完結型の環境であるので、同じワークステーション上に (Mobile iManager の旧バージョンを含む) 複数のバージョンをインストールすることができます。ただし、それらを同時に実行しないでください。異なるバージョンを使用する必要がある場合は、ある 1 つのバージョンを実行して、そのバージョンを閉じてから、別のバージョンを実行します。

インストールの準備をするために、以下の前提条件のチェックリストを確認します。

## 前提条件

- ❑ **その他の設定**：Internet Explorer を使用して LAN のプロキシサーバを設定する場合は、[ツール] > [インターネットオプション] > [接続] > [LAN の設定] > [ローカルアドレスにはプロキシサーバを使用しない] オプションも選択する必要があります。> > >
- ❑ **プロセッサ**：Pentium III 600MHz 以上のプロセッサ
- ❑ **ディスク容量**：最低 200MB
- ❑ **メモリ**：256MB の RAM (512MB を推奨)
- ❑ スペースを含むパスから iManager ワークステーションを実行しないでください。
- ❑ バージョン 4.91 より前の Novell Client™ を実行している場合は、iManager ワークステーションを起動する前に、NMA クライアントがワークステーションにすでにインストールされていることを確認しておく必要があります。
- ❑ ディレクトリの名前に、temp または tmp が含まれているパスからの iManager ワークステーションの実行は、サポートされていません。これを実行すると、iManager のプラグインがインストールされません。c:\temp\imanager または d:\tmp\imanager あるいは c:\programs\temp\imanager ではなく、C:\imanager またはその他の永続ディレクトリから、iManager ワークステーションを実行してください。
- ❑ Windows ワークステーションで初めて iManager ワークステーションを実行するときは、ワークステーションの管理者グループのメンバーであるユーザとして実行する必要があります。

iManager は、以下の製品をインクルードまたはインストールします。

- ◆ Tomcat 5.0.8.28
- ◆ Sun JRE 1.5.0\_09-b03
- ◆ Novell International Cryptographic Infrastructure (NICI) 2.7.3

## 手順

- 1 **Novell ダウンロードサイト** (<http://download.novell.com>) で、iManager 製品を検索し、iManager 2.7 を選択します。次に、iMan\_27\_workstation\_win.zip をダウンロードします。
- 2 ZIP プログラムを使用して、iMan\_27\_workstation\_win.zip ファイルをフォルダに展開します。
- 3 ファイルブラウザで、imanager\bin フォルダに移動します。
- 4 iManager.bat ファイルをダブルクリックし、スクリプトを実行します。
- 5 iManager ログインページが表示されたら、ユーザ名、パスワード、およびツリーを入力します。

iManager にアクセスするには、「**iManager へのアクセス**」を参照してください。

iManager の以前のバージョンからアップグレードした場合は、**27 ページの第 2 章「iManager のアップグレード」**を参照してください。

## 1.6 iManager サーバのサイレントインストール

サイレント (非対話型) インストールでは、ユーザインタフェースは表示されず、ユーザに対する質問も行われません。代わりに、InstallAnywhere がプロパティファイルから必要な情報を収集しながらインストールを遂行します。

NetWare ではサイレントインストールをサポートしていません。

サイレントインストールには次の 2 つのオプションがあります。

- ◆ 24 ページのセクション 1.6.1 「標準的なサイレントインストール」
- ◆ 24 ページのセクション 1.6.2 「カスタマイズされたサイレントインストール」

### 1.6.1 標準的なサイレントインストール

Linux または Windows サーバで、すべてのデフォルト値をそのまま使用して標準的なサイレントインストールを実行するには、次の手順に従います。

- 1 コンソールウィンドウを開き、ダウンロードした iManager ファイルがあるディレクトリに移動します。
- 2 Linux の場合は、コマンドラインで以下を入力します。

```
./iManagerInstall<platform>.bin -i silent
```

Windows の場合は、次のように入力します。

```
iManagerInstall.exe -i silent
```

### 1.6.2 カスタマイズされたサイレントインストール

インストールすべきモジュールを選別するなど、カスタマイズを加えてのサイレントインストールを実行するには、次の手順に従います。

- 1 インストーラの実行ファイルが格納されているディレクトリ内で、`installer.properties` ファイルを作成します。
- 2 `installer.properties` ファイルを使ってサイレントインストールを実行するには、次のように入力します。

```
./iManagerInstall platform.bin -i silent -f pathto_properties_file
```

- 3 `installer.properties` で、次の値を設定して保存します。
  - ◆ `$PLUGIN_INSTALL MODE$` (プラグインをディスク、ネットワーク、またはディスクとネットワークの両方からインストールするのか、あるいはどこからもインストールしないのかを制御するプロパティ)
    - ◆ プラグインがディスクからインストールされる場合、このプロパティを `DISK` に設定します。これはデフォルト値です。
    - ◆ プラグインがネットワークからインストールされる場合、このプロパティを `NET` に設定します。
    - ◆ プラグインがディスクとネットワークの両方からインストールされる場合、このプロパティを `BOTH` に設定します。
    - ◆ プラグインがインストールされない場合、このプロパティを `SKIP` に設定します。

- ◆ `$PLUGIN_DIR$` ( ディスク上にあるプラグインの場所を示す代替パスを定義するプロパティ )

デフォルトパスは、`installer_root_directory/iManager/installs/ platform path/plugin` です。

サブディレクトリを除き、プラグインディレクトリにあるモジュールはすべてインストールされます。

- ◆ `$PLUGIN_INSTALL_URL$` ( プラグインが置かれている URL を指定するプロパティ )

この URL は編集できます。詳細については、『*iManager 2.7 管理ガイド*』の「[Downloading and Installing Plug-in Modules \( プラグインモジュールのダウンロードおよびインストール \)](#)」を参照してください。 “”

- 4 ダウンロードする特定のモジュールを指定するには、次の例のように、NPM の `META-INF` フォルダに格納された `MANIFEST.MF` ファイルから、モジュール ID とバージョンを指定します。

```
$PLUGIN_MODULE_ID_1$=eDirectoryBackupAndRestore
```

```
$PLUGIN_VERSION_1$=2.7.20050517
```

```
$PLUGIN_MODULE_ID_2$=ldap
```

```
$PLUGIN_VERSION_2$=2.7.20050517
```

```
etc. . . . (repeated as many times as there are modules)
```

モジュールが定義されていない場合は、ダウンロード Web サイト上にある `iman_mod_desc.xml` ファイル内で「`seleceted`」としてタグが記述された、最も頻繁にインストールされるモジュールがインストールされます。

モジュールにバージョンが定義されていない場合は、NPM 名に一致するすべてのモジュールがインストールされます。



# iManager のアップグレード

# 2

サーバに Novell™ iManager がインストールされている場合、iManager 2.0.x か 1.5.x のどちらが実行されているかに応じて、iManager 2.7 にアップグレードするか、移行する必要があります。このセクションでは、次の手順について説明します。

- 27 ページのセクション 2.1 「許可されたユーザ」
- 27 ページのセクション 2.2 「役割ベースサービスのアップグレード」
- 28 ページのセクション 2.3 「Plug-in Studio プラグインの再インストールまたは移行」

## 2.1 許可されたユーザ

iManager をアップグレードする際、既存の configiman.properties ファイルが検出されると、インストール中に許可されたユーザ画面が表示されません。インストールでは、このファイルの既存の許可されたユーザ設定が使用されます。

## 2.2 役割ベースサービスのアップグレード

RBS コレクションがすでに含まれている eDirectory ツリーに iManager 2.7 を使用してログインする場合、最初のログイン時は役割とタスクの一部しか表示されない場合があります。これは想定内の動作です。これは、iManager 2.7 ですべてのプラグインを利用できるようにするには、プラグインの一部を更新する必要があるためです。RBS の設定タスクは、日付が古い RBS モジュールを一覧表示します。iManager 2.7 で使用可能な機能をすべて表示したり、使用したりできるように、RBS モジュールを最新のバージョンに更新することをお勧めします。

複数の役割に同じ名前が付けられている場合があることにご注意ください。プラグインの開発者によっては、iManager 2.5 のプラグインを更新したときに、タスク ID やモジュール名は変更しても、表示名は変更しないことがあります。このため、実際は異なるバージョンの別々のインスタンスであっても、役割が重複しているように見えます。

---

**注：**iManager のインストールを個別に確認すると、ローカルにインストールされているプラグインの数が異なるため、[役割ベースサービス] > [RBS の設定] ページから指定したコレクションのモジュールレポートに差異が見られる場合があります。> iManager インストール間で数を一致させるために、ツリー内の各 iManager インスタンスに、プラグインの同じサブセットがインストールされていることを確認します。

---

古い RBS オブジェクトがあるかどうかを確認するには、次の手順に従います。

- 1 [設定] ビューで [役割ベースサービス] > [RBS の設定] の順に選択します。> [iManager 2.x コレクション] タブページのテーブルに、日付が古いモジュールがすべて表示されます。
- 2 これらを更新するには、更新するコレクションの [日付が古い] 列の番号を選択します。  
日付が古いモジュールの一覧が表示されます。
- 3 更新するモジュールを選択して、テーブルの上部にある [更新] をクリックします。

---

注：iManager 2.7 に更新する場合、または iManager 2.7 を再インストールする場合、既存のプラグインは自動的に更新されません。プラグインを手動で更新するには、iManager を起動し、[設定] > [プラグインのインストール] > [利用できる Novell プラグインモジュール] の順に選択します。>> 詳細については、『iManager 2.7 管理ガイド』の「[Plug-In Module Installation \(プラグインモジュールのインストール\)](#)」を参照してください。 ”

---

## 2.3 Plug-in Studio プラグインの再インストールまたは移行

Plug-in Studio プラグインを別の iManager インスタンス、または新規あるいは更新したバージョンの iManager に移行または複製するには、以下を実行します。

1. iManager の [設定] ビューから、[役割ベースサービス] > [Plug-in Studio] の順に選択します。コンテンツフレームには、プラグインが属する RBS コレクションの場所を含む、インストールされたカスタムプラグインのリストが表示されます。
2. 再インストールまたは移行するプラグインを選択し、[編集] をクリックします。一度に 1 つのプラグインを編集できます。
3. [インストール] をクリックします。正常に終了したことを示すメッセージが表示されます。再インストールまたは移行する必要があるすべてのプラグインに対してこれを実行します。

# iManager 2.7 のアンインストール

# 3

このセクションでは、次のプラットフォームにインストールされている iManager をアンインストールする方法について説明します。

- ◆ 29 ページのセクション 3.1 「Linux」
- ◆ 30 ページのセクション 3.2 「NetWare 6.5」
- ◆ 30 ページのセクション 3.3 「Windows」
- ◆ 30 ページのセクション 3.4 「iManager ワークステーション」

---

**重要:** 安全対策として、iManager をアンインストールする前に、残しておくカスタムコンテンツや他の特定の iManager ファイルをすべてバックアップします。

---

iManager または関連するサードパーティ製のコンポーネントをアンインストールするための特別な手順はありません。

これらのコンポーネントをアンインストールすると何らかの影響が出る可能性があります。たとえば、Web サーバまたはサーブレットコンテナをアンインストールすると、iManager を実行できなくなります。Netware® を除くすべてのプラットフォームの場合、アンインストール時は、最初にインストールされたファイルのみが削除されます。たとえば、Tomcat の実行中に作成されたログファイルや自動生成された設定ファイルなど、アプリケーションにより作成されたファイルはアンインストールしても削除されません。

同様に、インストール時に作成されたディレクトリ構造内に新しいファイルを作成したり既存のファイルを変更した場合、これらのファイルもアンインストールでは削除されません。この方法は、製品をアンインストールする際にデータが誤って削除されないように採用されたものです。

iManager のアンインストールは、ツリー内で設定した RBS の設定には影響しません。このアンインストール手順では、ログファイルまたはカスタムコンテンツは削除されません。

## 3.1 Linux

アンインストールする場合は、ルートでアクセスする必要があります。

- 1 シェルを起動して、次のコマンドを実行します。

```
/var/opt/novell/iManager/nps/UninstallerData/UninstalliManager
```

アンインストールルーチン中に注意したように、iManager のアンインストールプロセスでは NICI はアンインストールされません。必要に応じて別途、NICI をアンインストールできます。

---

**重要:** iManager と同じサーバ上に eDirectory™ がインストールされている場合は、eDirectory を実行するために NICI が必要になります。

---

## 3.2 NetWare 6.5

- 1 Netware® の GUI で、[Novell] > [インストール] の順にクリックします。>
- 2 インストールされている製品のリストから iManager 2.7 を選択し、[削除] をクリックします。

## 3.3 Windows

Windows のコントロールパネルにある、プログラムの追加と削除アプレットを使用して、iManager をアンインストールします。

Tomcat と NICI は、別々に一覧表示されます。これらを使用しない場合は、各プログラムを別々にアンインストールできます。

---

**重要:** iManager と同じサーバ上に eDirectory がインストールされている場合は、eDirectory を実行するために NICI が必要になります。

---

iManager 2.7 を削除する場合は、ファイルシステム内の一部のファイルのみが削除されます。すべての iManager ファイルを削除するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。[はい] を選択すると、カスタムコンテンツを含むすべての iManager ファイルが削除されます。ただし、2.7 RBS オブジェクトは eDirectory ツリーから削除されず、スキーマは同じ状態のまま残ります。

## 3.4 iManager ワークステーション

iManager ワークステーションをアンインストールするには、ファイルを展開したディレクトリを削除します。NICI は、Windows の場合は [コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除]、Linux の場合は rpm コマンドを使用して削除できます。